

ひらつかの下水道

Vol. 4
2026.10

市民の皆さまに下水道への関心を高め、理解を深めていただくために、発行する
広報紙「ひらつかの下水道」。

今号では、令和8年3月に改定した「平塚市下水道事業経営戦略」をご紹介します。

～平塚市下水道事業経営戦略～

Q. 下水道事業経営戦略ってなあに？



A. 下水道事業を経営していく上で、基本となる計画のことだよ！
下水道サービスを将来にわたって安定的に提供していくために、これからどんな投資が必要で、そのためにどれくらいのお金が必要になるかなど、経営の様々な見通しを明らかにした計画なんだ。平塚市では、令和3年3月に策定した計画(計画期間10年間)が、ここで中間年を迎えたことから、令和8年3月に計画の改定を行ったんだ。

Q. この広報紙では何を教えてくれるの？



A. 計画の中心となる施設・設備に関する投資の見通しを試算した「**投資計画**」と、収支の見通しを試算した「**財政計画**」について、次のページから紹介するよ！
計画の全容を知りたい方は、市のホームページに掲載しているから、そちらを見てね。

平塚市下水道事業経営戦略の
ホームページ →



平塚市下水道事業 経営戦略

令和3年3月(策定)
令和8年3月(改定)
平塚市

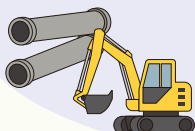


～暮らしをささえ、次世代へつなげる下水道～ 『投資計画』と『財政計画』のご紹介

①投資計画：施設等を整備・維持する

施設等の整備

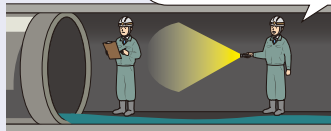
- ・下水道管路
- ・雨水調整施設



施設等の更新・維持

- ・耐震化対策
- ・長寿命化対策

安心して使えるように
点検・修復します。



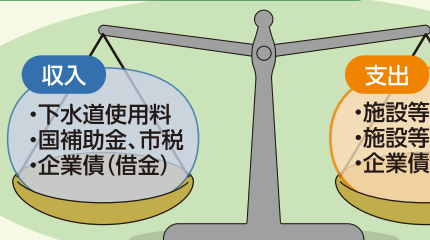
②財政計画：収支のバランスを保つ

収入

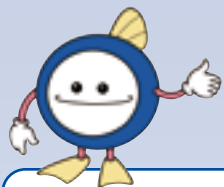
- ・下水道使用料
- ・国補助金、市税
- ・企業債(借金)

支出

- ・施設等整備費
- ・施設等管理費
- ・企業債の返済



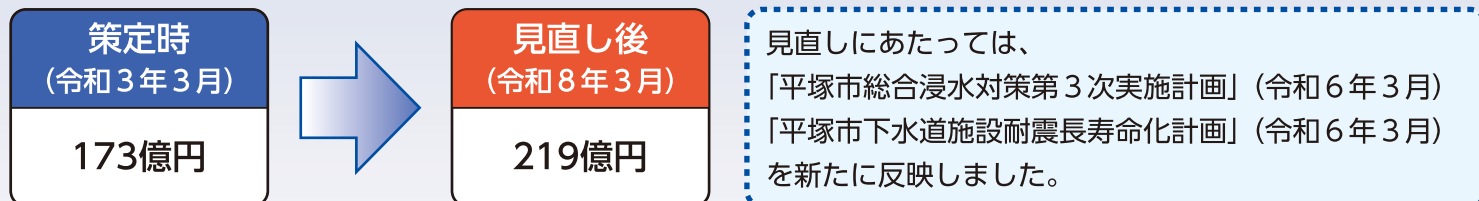
持続可能な下水道事業のために



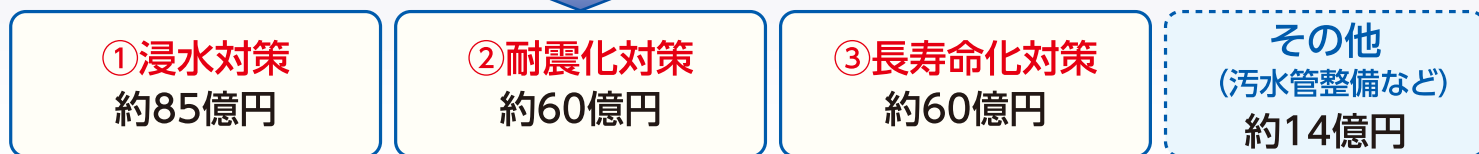
まずは**投資計画**を紹介するね。

将来にわたり持続可能な経営を実現するため、中長期的な投資の内容や所要額などを予測し直しました。昨今の激甚化・頻発化する水害に対する**浸水対策**や、災害時においても下水道の機能及び安全な道路交通を確保するための下水道施設の**耐震化対策**、老朽化が進行した下水道施設に対する**長寿命化対策**等について更に積極的に取り組む必要があることから、**物価や人件費の高騰などを踏まえて投資額の試算を行いました。**

【計画期間（令和8年度から令和12年度）の投資の総額】



見直し後の主な取組は、次の3つに分類されます



①**浸水対策**

Q. 浸水は市内でも起きているけど、
どんなことをしていくの？



A. 想定を超える大雨が降ったときに浸水被害が起きてしまうのは、雨水の放流先の河川水位が上がったり、河川の流れが悪くなることで、下水道管からの雨水が河川に排出しにくくなっていることが原因のひとつと考えているんだ。
このような浸水被害を減らすために、**雨水を一時的に貯めておくための「貯留管」の設置や、河川から下水道管に水が逆流しないように「水門」の改修をしていくんだ。**

平塚市総合
浸水対策
第3次実施
計画



だから「平塚市総合浸水対策第3次実施計画」で決めた対策を進めていくんだね。



【浸水対策の一例】



②管路やポンプ場の耐震化対策

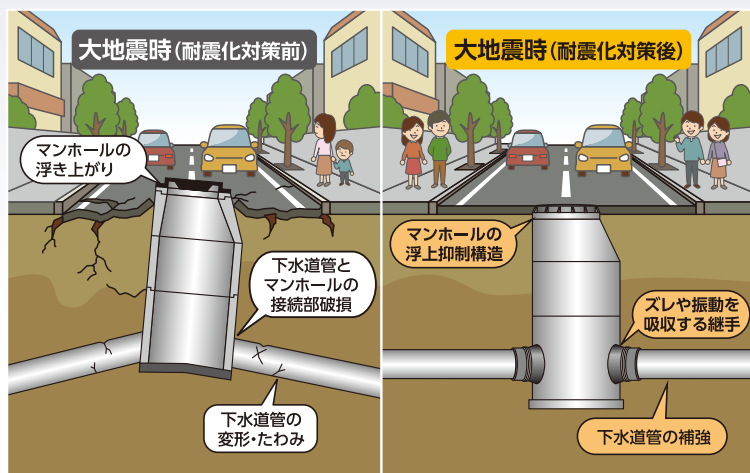
Q. 耐震化ってどんなことをしていくの？

A. 大地震により、下水道管が壊れることで、お風呂やトイレなどの「汚水」や降雨時の「雨水」が流せなくなっちゃうことがあるよ。また、液状化現象によるマンホールの浮き上がりで車が道路を通れなくなり、避難や救助活動、物資の運搬に支障が出ることもあるんだ。さらに、ポンプ場が壊れると、下水が流せなくなり、衛生面の問題も発生しちゃうんだ。このような事態を防ぐために、下水道管やポンプ場を地震に対して強くしておくことが重要なんだ。

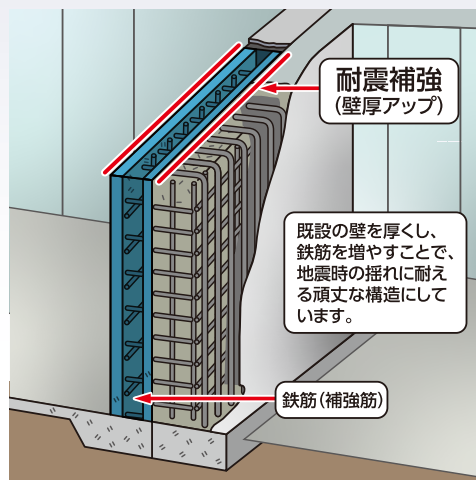
だから国道や県道などの重要な道路にある下水道管やマンホールの対策を優先的に進めているんだね。

特に、下水道管とマンホールの接続部は被害を受けやすいから、地震による揺れを吸収するゴム（継手）などを設置しているんだ。また、ポンプ場は建物の壁厚を厚くしたり、鉄筋を増やすなどの対策をしているんだ。

【下水道管耐震化対策の一例】



【ポンプ場耐震化対策の一例】



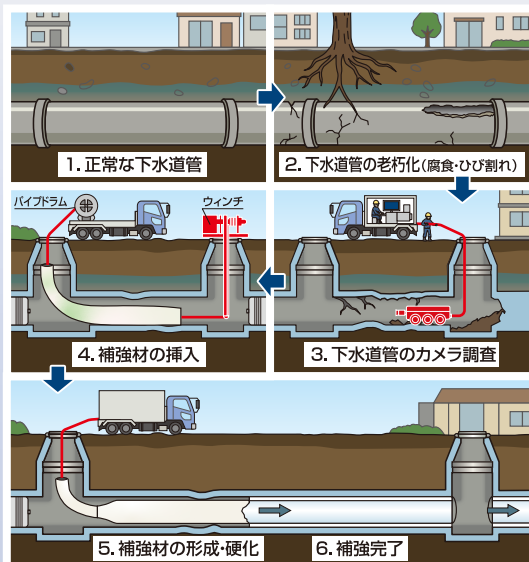
③管路やポンプ場の長寿命化対策

Q. 下水道施設は老朽化が進んでいるみたいだね。どんなことをしていくの？

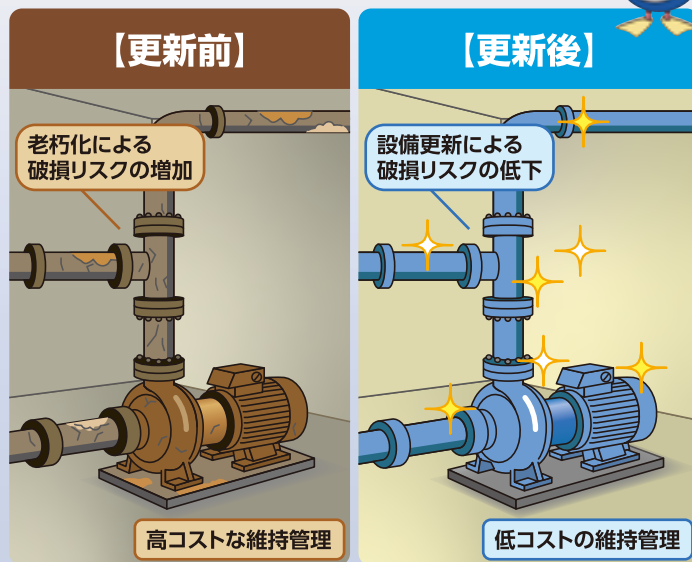
A. 私たちが使っている下水道管の標準的な耐用年数は50年って言われているよ。今後、多くの下水道管が耐用年数を迎えてしまい、ポンプ場の設備についても老朽化が進んでいるんだ。下水道管やポンプ場の内部の点検や調査をして、劣化状況を正確に把握した上で、壊れる前に計画的に補修や更新を行っているんだ。

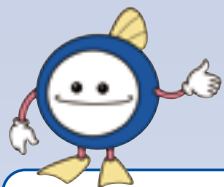
計画的に対策していくことで、突発的な修理費用や維持管理コストが抑えられるね！

【下水道管長寿命化対策の一例】



【ポンプ場の設備更新のイメージ】

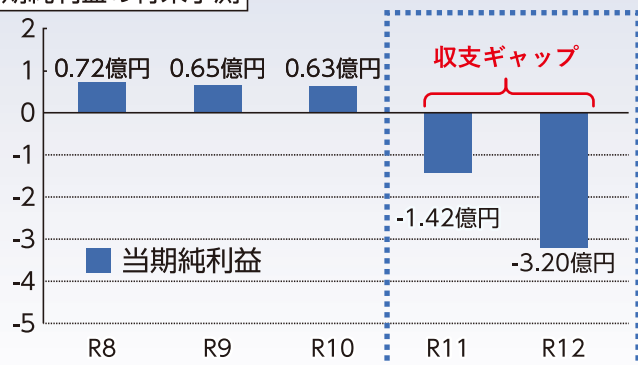




次に**財政計画**を紹介するね。

前のページでご紹介した投資計画のとおり、今後、下水道施設の耐震化や長寿命化などの投資が増加するとともに、物価や人件費も上昇傾向にあることから、事業に必要な支出が増加する見込みです。一方で、収入面については、本市では平成20年4月から下水道使用料の改定(値上げ)を行っておらず、人口減少の進行や節水意識の高まりなどにより、収入が減少していく見通しです。これらの要因などにより、令和11年度以降には、支出が収入を上回る**収支のギャップ**が生じ、経営が悪化する見込みです。

当期純利益の将来予測



このままでは経営が悪化してしまう予想なんだね…この収支ギャップはどうやって解消していくの？

主に次の4つの取り組みで、**収支ギャップの解消を図るよ!**

適正な下水道使用料のあり方も含め、より一層の経営効率化と経営基盤の強化に取り組んでいくんだ。



収支ギャップ解消に向けた主な取り組み

1 コストの縮減

下水道施設を調査・点検しながら計画的かつ効率的に管理することで、改築事業費の低減を図るとともに、デジタル技術なども活用した経営の効率化を図ります。

2 安定的な財源の確保

下水道への接続率向上や未収金の削減などにより、使用料収入の確保に努めるとともに、安全性や流動性を確保した上で、債券投資などによる効率的な資金運用を行います。

3 使用料の適正化

経費の節減にも努めた上で、適正な下水道使用料のあり方を検討します。

4 広域化・共同化、民間活用の検討

経営の更なる効率化を目指し、周辺自治体との共同化や民間活力の活用を検討します。

平塚駅周辺で、七タカーマンホールを探してみよう!



- ① 明石町スルガ銀行前
- ② 紅谷町まちかど広場付近
- ③ 紅谷町パールロード



馬入ふれあい公園
周辺にも3か所
あるよ!
詳しくはこちら↓



ひらつかの下水道

バックナンバーは
こちら→



©スイスイ

下水道のマスコット
キャラクターです。
@日本下水道協会



平塚市 土木部 下水道経営課・下水道整備課 令和8年10月 発行

〒254-8686 平塚市浅間町9番1号

電話：0463-23-1111 (代表)

<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/machizukuri/gesui.html>

